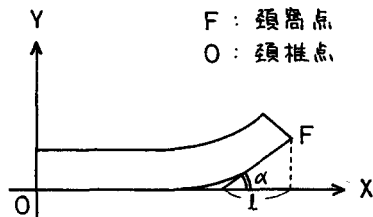


目的 衣服設計のための身体計測においては、従来一次元、二次元寸法的な研究に偏しがちであった。しかし、衣服が複雑な曲面構造からなる着衣基体を覆うものであることから、人体の形およびその表面形状に対する関心が高まってきつつある。今回は、モアレ法をもとに作成した体表近似展開図から、人体頸部に被服学的解釈を与えることを試みた。

方法 成人女子50名の右側頸部をモアレ撮影して得られた直交座標群から、幾何学的に体表近似展開図を作成した。展開図中、肩部形態とも関係深い頸付根線に相当する輪郭線に数本の近似接線をひき、これによって頸部を分類した。

結果 近似展開図は接線によって t , l , α などの変数で表現できた。展開図の長さ t は、展開図の頸付根線の既述94名の値を示した。また近似接線群中、頸部前面にみられる接線は50例全てに出現し、その傾 α および長さ l は鎖骨の形状に大きく影響されていた。これらの接線の位置関係から50例を観察・計測した結果、頸部はI.円弧型、II.放物線型、III.正弦波型、IV.余弦波型、V.匙型に分類され、各タイプ別に3面図および上半身の計測値に特徴的傾向がみられた。



右側頸部展開図